

2018(H30)シカ年度 エゾシカ個体数モニタリング実施結果

1. 航空カウント調査（環境省事業）
2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）
3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

1. 航空カウント調査（環境省事業）

【概要】

- ・ 知床半島の世界遺産地域内の航空カウント調査区(U-01～06, 11～13, 13s; 図 5-2-1)において、シカの航空カウント調査を 2019 年 2 月 26 日～3 月 3 日の期間中に 4 日間実施。計 138 群 621 頭を確認。
- ・ 前年の同一エリアにおける結果 (92 群 659 頭) と比較し、38 頭 (5.8%) 減少。
- ・ 各地区 (モニタリングユニットによる区分: 図 5-2-2) における発見密度は、知床岬地区 (22.91 頭/km²) が最高、次いで岬東側 (9.03 頭/km²)、ルシヤ (7.11 頭/km²) の順。
- ・ 個体数調整事業の実施地区の中で、航空カウント発見密度の目標値 (通常 5 頭/km²以下、知床岬のみ 5-10 頭/km²以下) 未達成は知床岬地区のみ。

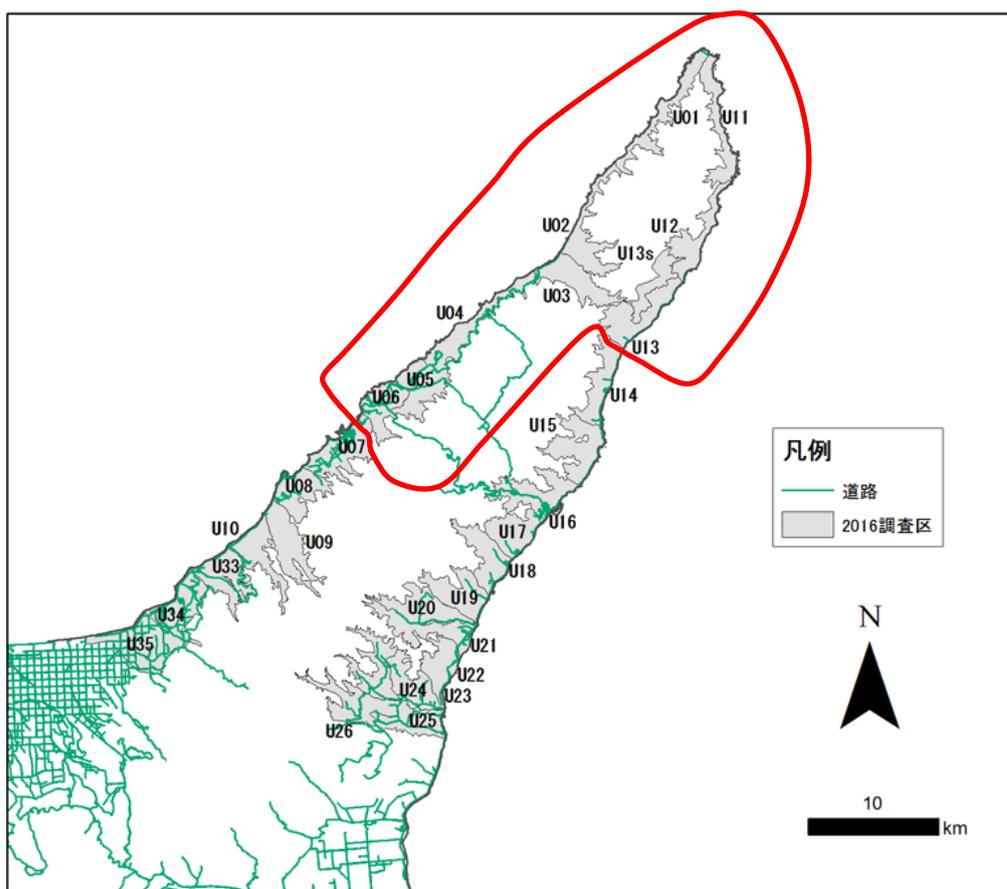


図 5-2-1. 2019 年に実施した知床半島エゾシカ航空カウントの調査区、計 10 区画の位置 (2016 年の広域調査実施地区のうち、赤線で囲んだ部分)。標高 300m 以下の標準調査区 9 区画 (U-01～06, 11～13), 標高 300m～500m の高標高調査区を 1 区画 (U-13s)。

※飛行ルートや航続距離を考慮して設計された、従来の航空カウント調査区に基づいた地区区分では、捕獲や植生調査を実際に実施しているエリアやシカの主要越冬地の面積と、各地区の面積との間に不一致が生じていた。そのため、2016年にエゾシカの調査、捕獲および植生調査に係る関係者が協議し、境界線を修正したモニタリングユニット(図5-2-2)が新たに設定された。

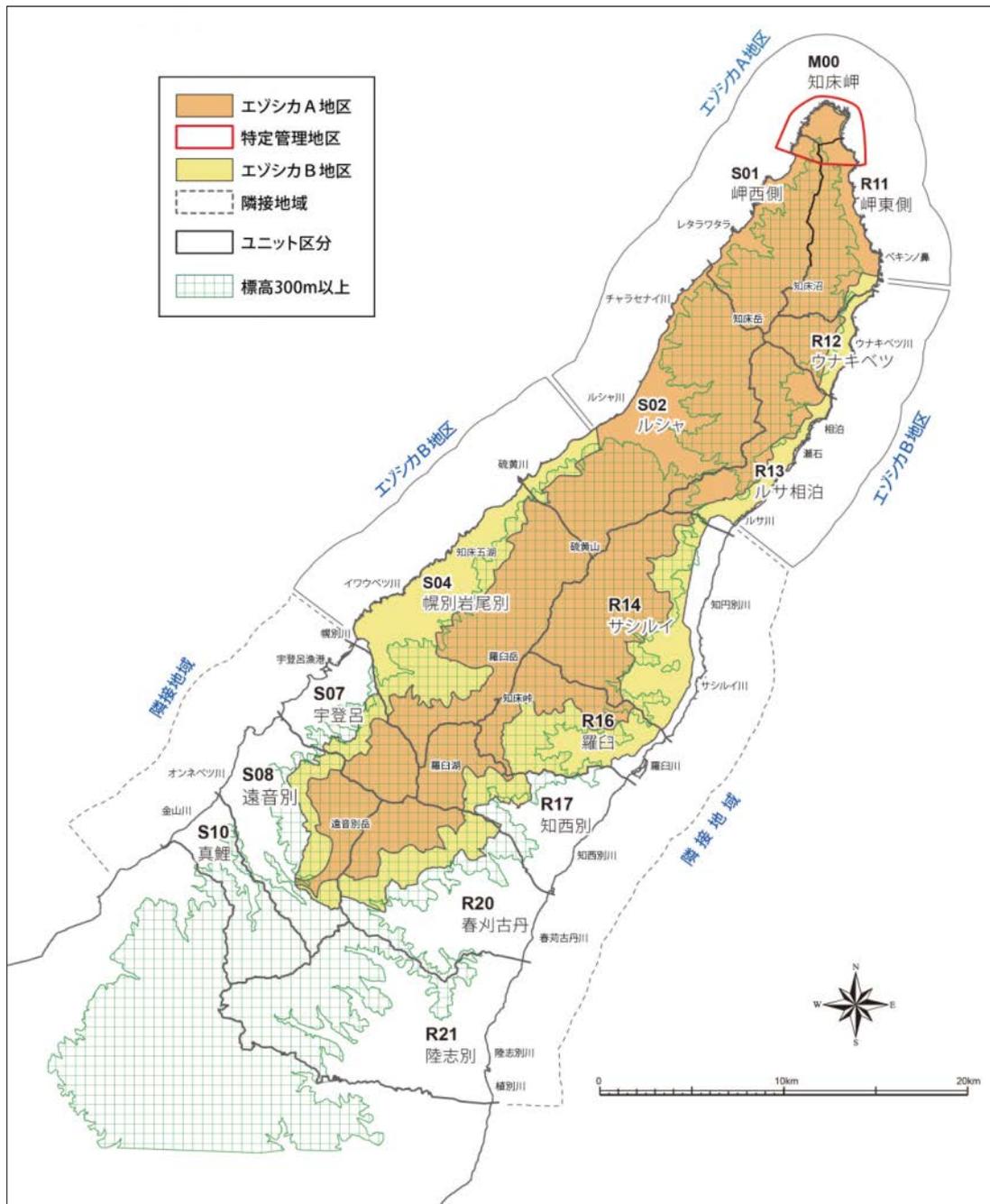


図5-2-2. 知床半島におけるエゾシカの個体群管理および植生モニタリングに対応したモニタリングユニットの区分図。M00, R11, S02などがモニタリングユニット名。

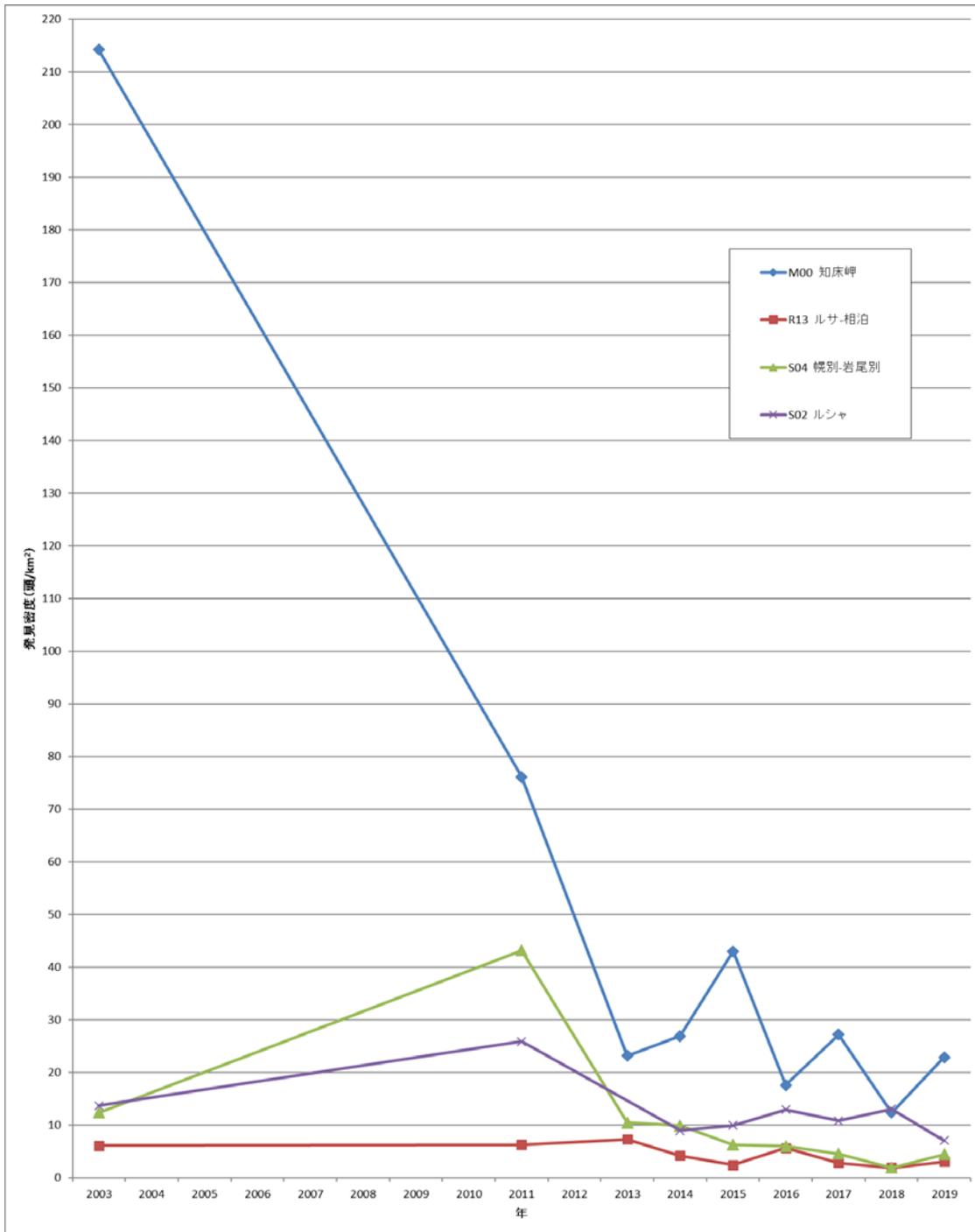


図 5-2-3. 遺産地域内の主要越冬地 4 ヲ所(モニタリングユニットによる区分)における、航空カウント調査によるシカ発見密度の経年変化

表 5-2-1. 遺産地域内の全モニタリングユニットにおける 2019 年の航空カウント調査結果

モニタリング ユニット名	うち航空 調査実施 面積 (km ²)	2019年2-3月調査		捕獲圧 の有無
		発見数 (頭)	発見密度 (頭/km ²)	
M00 知床岬	3.23	74	22.91	あり
R13 ルサ-相泊	24.68	76	3.08	あり
S04 幌別-岩尾別	29.08	130	4.47	あり
S02 ルシヤ	25.46	181	7.11	なし
R11 岬東側	8.75	79	9.03	なし
R12 ウナキベツ	4.51	24	5.32	あり
S01 岬西側	8.33	57	6.84	なし
合計	104.04	621	5.97	

*R12 ウナキベツ地区において捕獲圧が存在したのは 2017 年のみ.

2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

<2-1. ルサー相泊地区>

- ・1998～2008年は月1回、通年で実施。
- ・2009年以降、春と秋に各時期5日間集中で実施する方式に変更。調査コースは道路沿いの10.2km区間で変わらず。
- ・2016年夏に調査区間で土砂崩れが発生して通行止めとなったため、2016年秋期は調査中止（断念）、2017年春期は調査コースを4kmに短縮して実施。
- ・2017年秋期：全ルート（10.2km）実施再開。
- ・2019年春期は4/25～30のうち5日間で調査し、発見頭数63.4頭、密度指標値6.2頭/km、100メス比22.0であった（いずれも5回分の平均値）。発見頭数の日別最大値は76頭/10.2km。

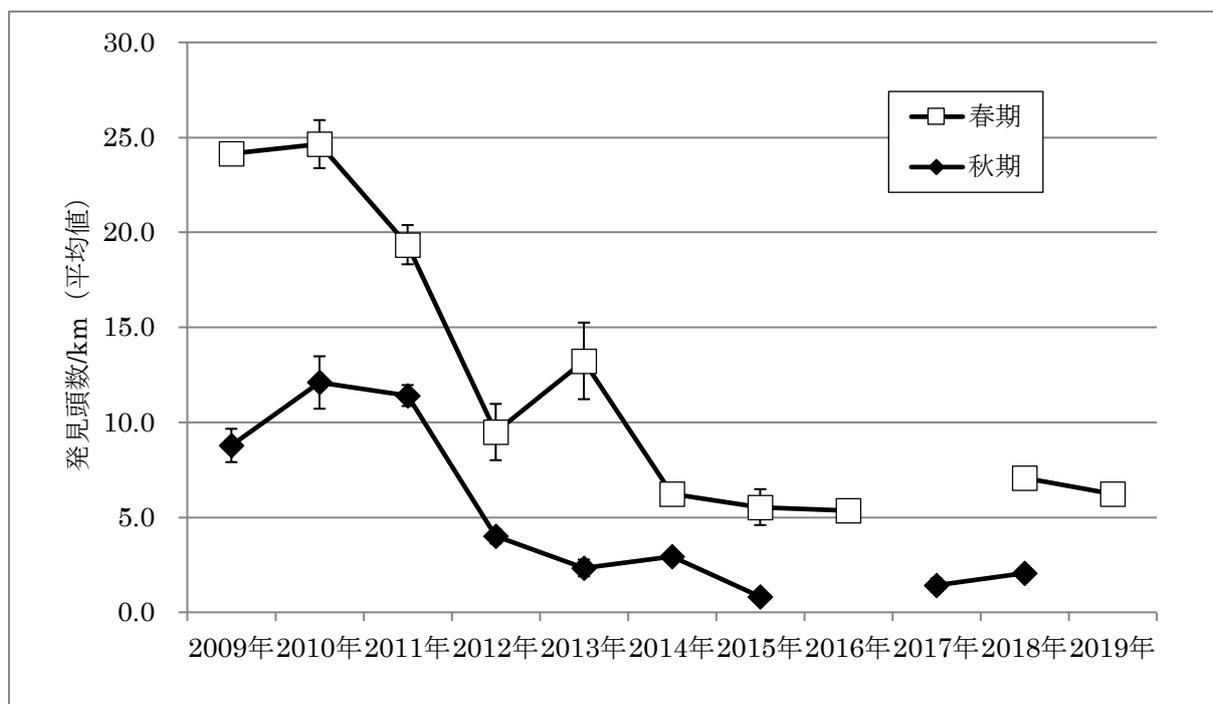


図 5-2-4. ルサー相泊地区のライトセンサス結果の経年変化
(調査各5回分の平均値±標準誤差)

※ルサー相泊地区では、2009（H21）シカ年度からエゾシカの捕獲手法検討調査、2012シカ年度から密度操作実験、2015シカ年度から個体数調整事業が実施されている。

<2-2. 幌別ー岩尾別地区>

- ・1980年代末より春と秋に継続して複数回、幌別コース（調査距離4.9km）および岩尾別コース（同4.5km）の2コースで実施。

- 2019年春期（4/20～24）は、幌別では0.8頭/km減少、岩尾別では0.3頭/km前年から増加していた。最大発見頭数は幌別41頭（前年42頭）、岩尾別32頭（前年18頭）。
密度指標値（平均）は幌別6.1頭/km（前年6.9頭/km）、岩尾別3.6頭/km（前年3.3頭/km）（図5-2-5）。
- 2018春の100メス比（平均）は幌別18.3（昨年31.1）、岩尾別44.7（昨年17.6）。

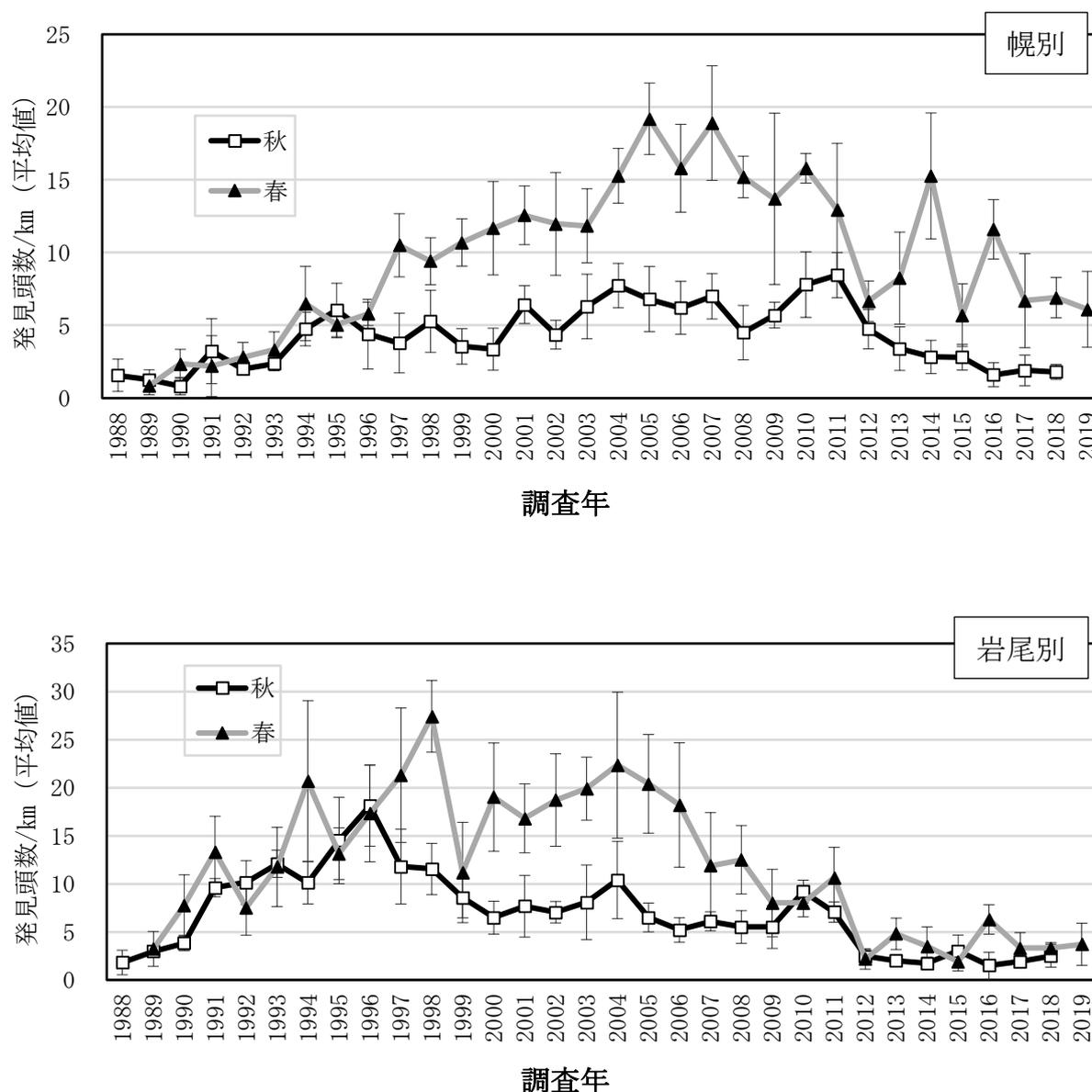


図 5-2-5. 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサス結果(春 1989～2019, 秋 1988～2018)
(数値は平均値±標準誤差)

3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- ・斜里町側隣接地域の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道334号沿い、延長約12kmにおいて、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を2008年1月（H19シカ年度）より実施。
- ・国指定知床鳥獣保護区内に相当する区間（三段の滝～オペケプ川）の調査距離が3.5km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が8.5km。
- ・基本的に天候の良い日の午後に、国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。2019年1月から3月までの期間に計5回実施。調査は基本的に可猟期間外（狩猟中断期間含む）に実施した。
- ・最大発見頭数は110頭（2019年3月25日）（前年40頭；3月18日）。密度指標値は9.2頭/km（前年3.3頭/km）。
- ・確認頭数が2012（H24）シカ年度以降6年連続で減少していたが、2017（H29）シカ年度から2018（H30）シカ年度にかけては増加。狩猟を目的とした国有林への入林禁止措置が影響し、国道沿いへのシカの出現が増えたと考えられる。

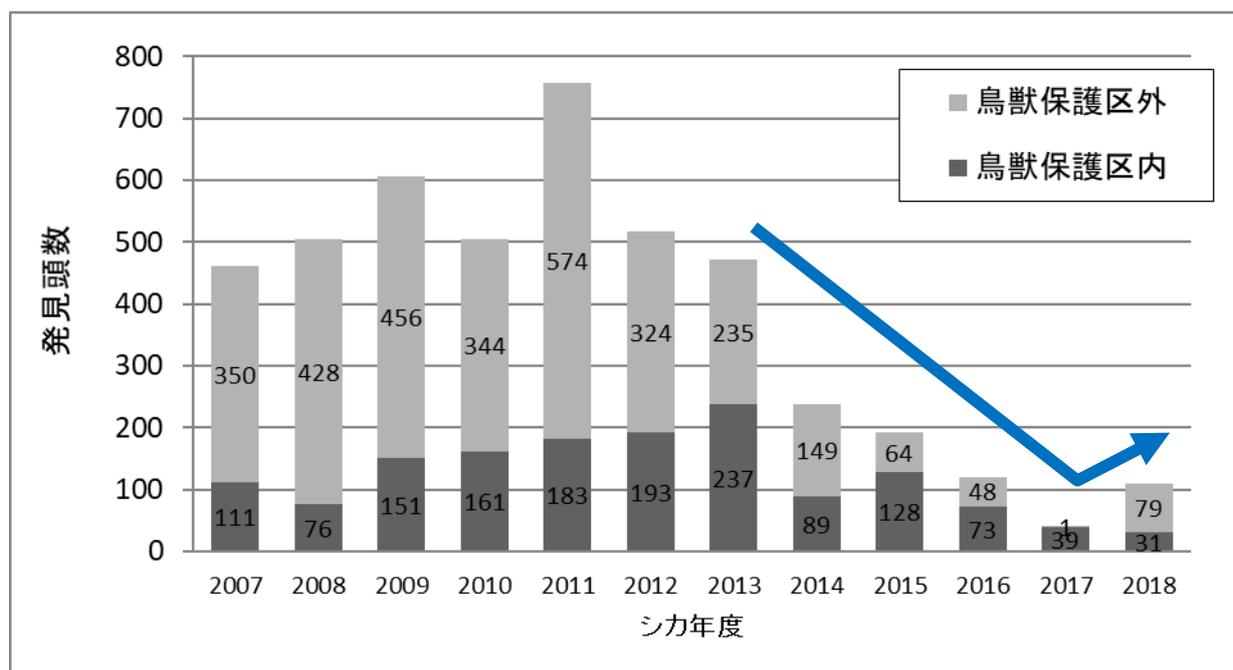


図 5-2-6. 斜里町オシンコシン～真鯉地区の日中ロードサイドカウントにおけるシカ年度別最大確認頭数の年次推移(2007～2018シカ年度).